

松ヶ崎少年補導だより

下鴨少年補導委員会
松ヶ崎支部

発行責任者
支部長 北川 憲一

防災の日に思うこと

京都市立松ヶ崎小学校 教頭

池田 利勝

九月一日は、「防災の日」でした。ご存知だとは思いますが、一九二三年（大正十二年）のこの日に起きた関東大震災の教訓を忘れない、という意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて、一九六〇年（昭和三十五年）に制定されたものです。

松ヶ崎小学校でも「防災の日」の取組として、八月三十日（木）に避難訓練を行いました。大きな地震が来たという設定で、教室から運動場に避難しました。子どもたちはとても真剣に取り組んで、冗談をする子や話をしている子もいませんでした。訓練で出来ないことは本番ではできません。避難訓練に取り組む真剣な姿勢は素晴らしいものでした。もしも災害に出くわしても訓練を思い出して実践することと思います。

訓練を行って思ったことは、やはり昨年（三〇・一一）の東日本大震災の地震や津波の災害です。このときの地震や津波の映像は、想像を絶するものでした。また八月

の中旬には、京都府宇治市で大雨による被害もありました。被害に遭われた多くの方々が、「こんなこと初めてや。長いことここに住んでいるけれどこんなことになるとは思わなかった。」と言っておられました。天候の不順や地震等いつやってくるかもしれない災害に対して、学校でも、児童の安全確保に向けて防災教育を推進し、防災安全管理体制を充実させる取組を実践していくことが最重要課題であると認識を新たにしました。

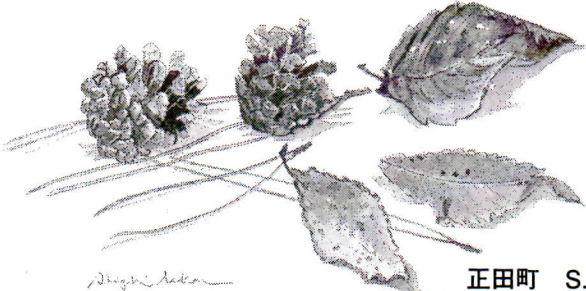
もう一つ思ったことは、数年前からわが家の玄関の壁にこんな言葉がはってあります。「過去をなつかしむより」「未来に期待するよりも」「今こそ大事に生きよう」というものです。最初にこれを読んだとき、バンドラの箱ではないけれど未来に期待するのが何でだめなのかなあと思いました。未来に期待しないと生きていけないのと違うかと思っていました。しかし、いろいろな災害が起こり一瞬にしてたくさんの方が亡く

なったり、昨日までの生活が全く変わってしまったたりすることをたくさん目にしたり、聞いたりする中で前記の言われている意味が分かってきました。「あの時こうしておけばよかった。」「この先自分の人生はどうなっていくのだろう。」と思うことは誰にでもあることです。しかし、過ぎ去ったことは、もとは戻せません。また将来のことはその時になってみないと分からないということだと分かりました。今生きている一瞬がとても大切なことで、意味の無い日など無いということです。今年の夏に禅僧が書かれた本を読んだのですが、その中にも同じような意味のことが書かれてありました。夢や目標をもって生きることが、とても大事なことです。またそれに向かつて突き進むことも必要です。それにはまず、今を一所懸命生きなければならぬということです。子どもたちに今を大切に、生きていく一瞬、一瞬が大事であることも分かってもらえればと思います。私も、今を大切に一所懸命生きていこうと心に思った日でした。

少年補導の歌

東 政治郎 作詞
蔵田 春平 作曲

一、明るい街に 人は和し
明るい家に 子は伸びる
大人子供は しっかりと
心をつなぎ 手をつなぎ
何でも話す 子になろう
何でも聞ける 親になろう



正田町 S.S.さん

さしのべる 手のぬくもりを どの子にも

自転車 日本一周旅行紀

「日本ってええ国や!!」

井出ヶ海道町 猪飼和裕

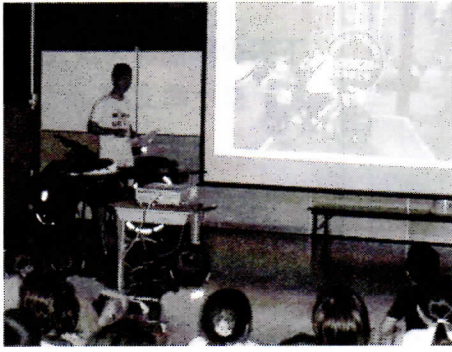
七月二十一日 松ヶ崎小学校で行われた飯盒炊さんにて講演をしてもらいました。

はじめ

僕は一九八五年、左京区の松ヶ崎に生まれた。今二十六歳だ。二〇一一年の六月から二〇一二年六月までの一年間、自転車で日本全国を二万km、(およそ地球半周分)を走ってきた。その旅の中で起こった出来事、感じた事、考えた事を読んでもらいたいと思います。

旅について

なぜ、自転車で日本一周という、冒険旅行をしようと思ったか、それはただ単純な動機だ。日本に生まれたから、日本を知り、感じたかったから。夢だったから。その夢を叶える相棒が、自転車になった訳は自分の力で進めるか



らでした。自分の体で五感すべてを使い、周りたかったからです。自転車で積んだ荷物は、 TENT や寝袋、エアマット、登山用のバーナー、コッヘルなどの生活用品、衣類、食料、パソコンなどで、四〇kg ぐらいにはなっていた。

旅の最初の方は「なんじゃこりゃ!」って声に出るぐらいハンドルもぐらぐら、ペダルもびくびくする重さ。二人乗りした自転車とは比べ物にならないぐらい重たく感じた。けれど、馴れとはずいもので、一週間も経たないうちに、乗りこなす、スイスイ旅ができた。まあお尻は一カ月ぐらいパリッと筋肉痛でしたが…。

旅の行程はザックリ書くと、東北の震災ボランティアまで国道をググッと走り、それから、北海道を回り、本州をジグザグに日本海から峠、峠で太平洋へ行きながら南下して、四国ではチャリ遍路をしてから山陽側を走り、九州を反時計周りに走り、鹿児島から沖縄へ。さらに遠くの島々まで行ってから、九州の太平洋側を通り、山陰側から京都に戻ってきました。

日本の素晴らしい自然との出会い旅をしている中で、たくさんの感動的な自然と出会った。今までは、写真、テレビでしか見た事のない景色だ!

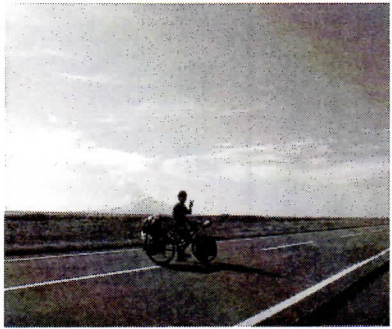
そのうちの言葉を失ったり、叫んだりした景色を紹介したい。そこは北海道の留萌から稚内へと続き、北海道に来たら一度は走ってみたいと言われる道路です。まっすぐにどこまでも続くかと

感じるほど長い長いアスファルト、西を見れば日本海と利尻島、東を見れば一直線に立ち並ぶ風力発電や見渡す限り広がる大平原。ここは日本なのか!? 日本にこんな場所があったのか!? と思ひ、気づけば叫んでいた。大声で言葉にはできない音を叫んでいた。そんな声は誰に聞かれることもなく、誰が聞くこともなく、どこかに消えて

いってしまう。だって誰もいないし、いても車に乗ってるから。誰かと分かち合う事ができないのも一人旅の醍醐味。グッと寂しい心を抱いて、言葉を発することなく、この大自然を満喫する。というより、ただまっすぐの道が何十キロと続けば叫び続けられないよ…。

でも、この旅であんな景色を見たのはオロロンラインだけだった。僕の中で一番見てほしい景色だ。あの道から眺める夕日は、一生心の中で輝き続けていくだろう。

だと思ふ。人の優しさ、温もり。僕も例外なくたくさんの人々に助けられた。この高度に発達し、便利になった世の中でも、変わらずなのは人だと思ふ。どれだけ豊かな生活を送っていても、その豊かさは物質的なものが多いんじゃないかな!?



僕とはとても不便な生活をしていった。テント生活のその日暮らし。水もトイレも食料も現地調達。毎日お風呂なんて入れない。そんな旅生活でも、たまたま話かけて頂いた方のお家に泊めてもらうという事があった。みんなで食べるご飯、しっかりとした屋根で眠る安心感、日常生活では当たり前と思っていただけに、普通の生活を与えてくれたことも、知らない旅人の僕を快くもてなしてくれた、優しさや温もりにとっても感謝したし、心が豊かになっていくのが分かった。

旅をしなければ、絶対に味わうことのできなかつた気持ち、人に対する無償の愛を感じた。

人とのふれあい

おわりに:

人生において、何が正しい選択で、間違った選択かなんて分らないと思ふ。でも、悩んだり、後悔したり、喜んだり、楽しんだり、たくさん経験をした分、人生という長い道は太く、しっかりとしたものになるんじゃないかと思ふ。僕はその道を作る為に、とても良い経験ができたと思ふ。その経験を与えてくれた旅に感謝したいし、今度はその経験を自分の中に留めるだけじゃなく、誰かに良い形で与えていくことが、僕の次の夢です。

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄



猪飼君の記事を松ヶ崎少年補導だよりに掲載することになったのは、昨年六月から今年の六月まで約一年かけて日本全国を「二人で自転車」を使って一周し、途中で東日本の被災地でのボランティア活動も行い、行く先々で人との温かい「絆」を実際に体験されました。折角の実験談を「一生の声で松ヶ崎小学校の生徒さんに聞いて貰いたい」と小学校の高向校長先生・少年補導の北川支部長さんと話し合いを持ち「七月二十一日(土)実施の飯盒炊さん」の時に学校ランチルームでパワーポイントを使いながら講演をしてもらうことになったのです。ランチルームの参加は三〇〇四〇名ぐらいだったので松ヶ崎学区の皆さんには是非お知らせしたいと思ひ、今回「松ヶ崎少年補導だより」に掲載となった次第です。

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

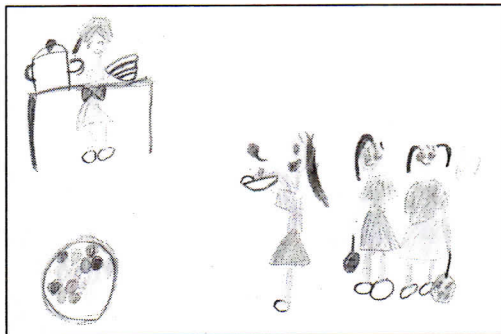
松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

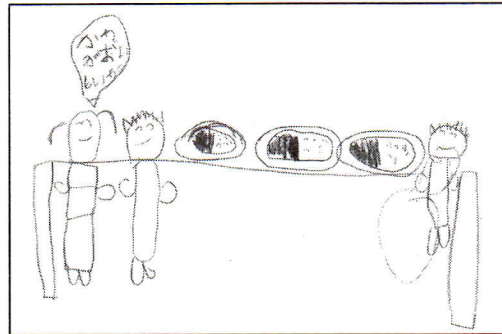
松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄

松ヶ崎社会福祉協議会
会長 西野 信雄



	た	べ	な	た	つ	に	ん	つ		(なまえ)
	で	で	で	か	く	い	ご	21	わ	お
	す	お	お	し	っ	き	う	に	た	く
		い	そ	し	て	ま	す	ち	し	に
		し	と	を	も	し	い	に	は	り
		か	で	み	ら	た	さ		り	ん
		つ	た	ん		ん	は		か	か

松ヶ崎小学校 一年二組 おくだ りんか



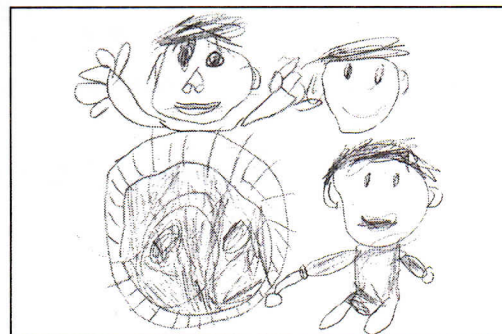
				じ	な	し	な	ご	ん	か	(なまえ)
				ん	も	ろ	か	す	あ	れ	い
				で	の	も	に		い	し	わ
				す	は	の	は	か	し	が	た
						で	い	れ	か	い	は
				に	す	っ	い	っ	ち	か	ち
				ん	っ	て	の	た	は	か	か

松ヶ崎小学校 一年一組 いわた ほのか



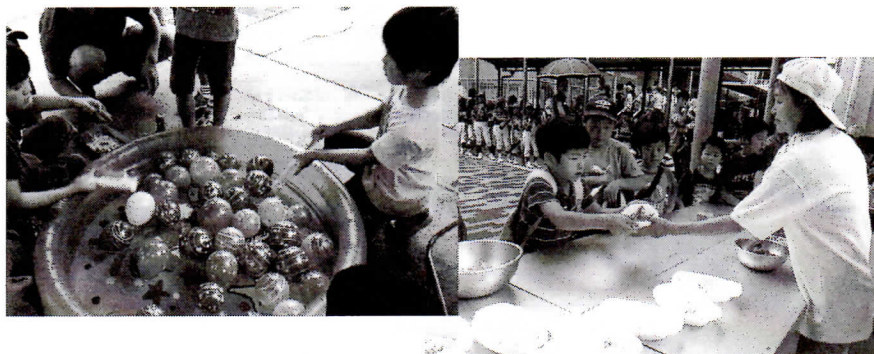
	す	お	ま	を	え	し	か	に	ん		(なまえ)
	い	し	の	に	た	レ		ご	あ	お	
	ま	し	た	せ	お	か	い	う	た	く	
	た	か	て	つ	し	を	ぎ	す	し	に	
	い	っ	と	も	け	い	た	ま	い	は	
	ぎ	た	て	ら	も	の	べ	し	さ	な	
	た	で	も	い	の	う	ま	た	ん	は	

松ヶ崎小学校 一年一組 おくだ ななか



	か		り	た		ん	は	+		(なまえ)
	っ	と	を	り	か	が	ん	う	ま	な
	た	て	し	ヨ	レ	あ	ご	が	つ	か
	で	も	ま	い	り	っ	っ	が	う	ち
	す	た	し	ヨ	を	ま	す	こ	さ	ど
		の	た	い	た	し	い	う	き	け
		し	っ	つ	べ	た	さ	で	し	け

松ヶ崎小学校 一年二組 なかた ゆうすけ



第 27 回

子供フェスティバルのお知らせ

本年も 11 月 3 日 (文化の日) に実施します。
多数のご来場をお待ちしています。

支部活動 状況報告

前号に引き続き、当支部のその後の活動状況につき、ご報告いたします。

1 三月二十九日 松ヶ崎少年補導だより第五十四号編集委員会

文字の校正や誌面のレイアウトにつき、手直いたしました。

2 四月九日 松ヶ崎少年補導だより第五十四号を發刊し、三〇〇部を印刷、市政協力

委員さん、隣組長さん方のご協力により、全世帯、関係機

関に配布いたしました。

3 四月十三日 支部三役会

平成二十四年度当支部の総会の議案、実施日時、年間行事

等について協議いたしました。

4 五月十一日 支部定期総会

平成二十三年度決算、監査報告、事業報告、平成二十四年

度予算案、事業計画案について審議し、満場一致にて決定

6 六月十二日 社会を明るくする運動地域集会の打ち合わせ

を行いました。

6 六月二十一日 支部役員会

七月に実施予定の行事の分担、飯盒炊さんとヨーヨーつりの会

について、実施日時、参加人数の推定、材料等の調達の分担に

ついて協議いたしました。

7 七月一日 第三十四回少年を明るく育てる京都大会

朝から雨のため中止になりました。

8 七月十四日 第六十二回社会を明るくする運動地域集会

保護司会等関係各団体と共催

京都市立第四錦林小学

校長木下正敏先生の「育てたよ

うに子は育つ」と題する講演を拝

聴いたしました。

9 七月二十一日 飯盒炊さんと

ヨーヨーつりの会

キッズ・スタッフとして各コー

ナーで児童にお手伝いして頂き、楽しい一日となりました。

10 八月二十五日 松ヶ崎自治連

合会主催の「夏まつり」に

協賛参加

売店のお手伝いしながら、

子供達を見守りました。

11 九月十五日 松ヶ崎少年補導だより第五十五

号編集会議

原稿の作成、寄稿原稿の点検、

紙面の構成、配置などの作業

を行いました。

12 九月十六日 松ヶ崎児童館親子

まつりのお手伝いをしました。

13 九月二十五日 松ヶ崎少年補導

だより第五十五号編集委員会

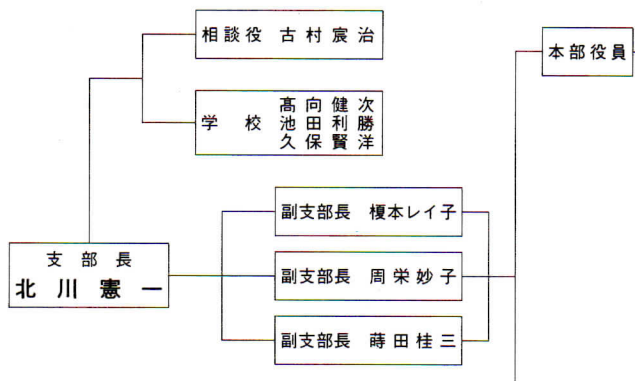
文字の校正や誌面のレイアウト

につき、手直いたしました。



下鴨少年補導委員会松ヶ崎支部組織表 (平成24年・25年)

◎ = 部長



少年補導委員の任期が二年となっており、この四月一日を以って委員ならびに役員が改選され、新しい組織図は次の通りです。

庶務部	◎古谷佐代子 大谷泰子 吉田法子
会計部	◎岩崎千鶴 山田清美
補導部	◎庄司尚文 半井達弥 田中格夫
企画部	◎西野藤夫 河村恵子 西野信雄
広報部	◎関口多恵子 高田三津子 小山葉子 佐藤千賀
会計監査	◎山田博久 岩崎 薫
◎ = 地域委員長	
東町	東町 樋ノ上町 井出ヶ鼻町 小脇町 ◎刀禰節子 安藤百合子 西郡藤夫
堀町	堀町 御所ノ内町 雲路町 鞍馬田町 ◎田中格夫 山田清美 國松聖子
中町	中町 木ノ本町 海尻町 ◎西野信雄 竹内俊隆 岩崎 薫 山田博久 河村恵子 小山葉子
西町	西町 寺町田町 六ノ坪町 平田町 井出ヶ海道町 今海道町 林山 西山 ◎岩崎千鶴 北川憲一 小柳憲治 高田三津子 古村宸治 小瀧忠一 大谷泰子 半井達弥
西部	芝本町 三反長町 呼返町 ◎古谷佐代子 河村美由紀 井上康子 佐藤千賀
中部	堂ノ上町 杉ヶ海道町 横縄手町 修理式町 久土町 泉川町 ◎中角朋子 坂井節子 榎本レイ子 高屋真喜子
南部	柳井田町 西桜木町 東桜木町 ◎関口多恵子 吉田法子 町田加代美 周栄妙子 庄司尚文 福井喜子
正田町	正田町 ◎蒔田桂三 土井崇裕
小竹藪町	小竹藪町 ◎井上規子 鈴木かおる

順不同 敬称略